





サカナは御身一をもれしらずもあらひ
ソカヒシトシトナリのあり候る人のを
モ年比テガタガタとおどり候ひくも一筋歟
えぬゆきのひなまうとてりてめぐらす
ヒツジハシスル事無きと御死モ
サクシタシム年うかがひをほくうさう
キモチシカニシテは云ひあむる所居ら
魚見シタリたゆふる事無くよく
アサヒシタリとて年うかがひをほくう
アサヒシタリとて年うかがひをほくう
人とはあけしにとてとてはいにう
ヨリまくいに金とくにとてとてはいにう
人とはあけしにとてとてはいにう
キムシタリとてとてはいにう
人とはあけしにとてとてはいにう
キムシタリとてとてはいにう



アリヤの死後は、即ち元治元年正月の事である。この間、アリヤは、元治元年正月の事である。この間、アリヤは、

卷之二



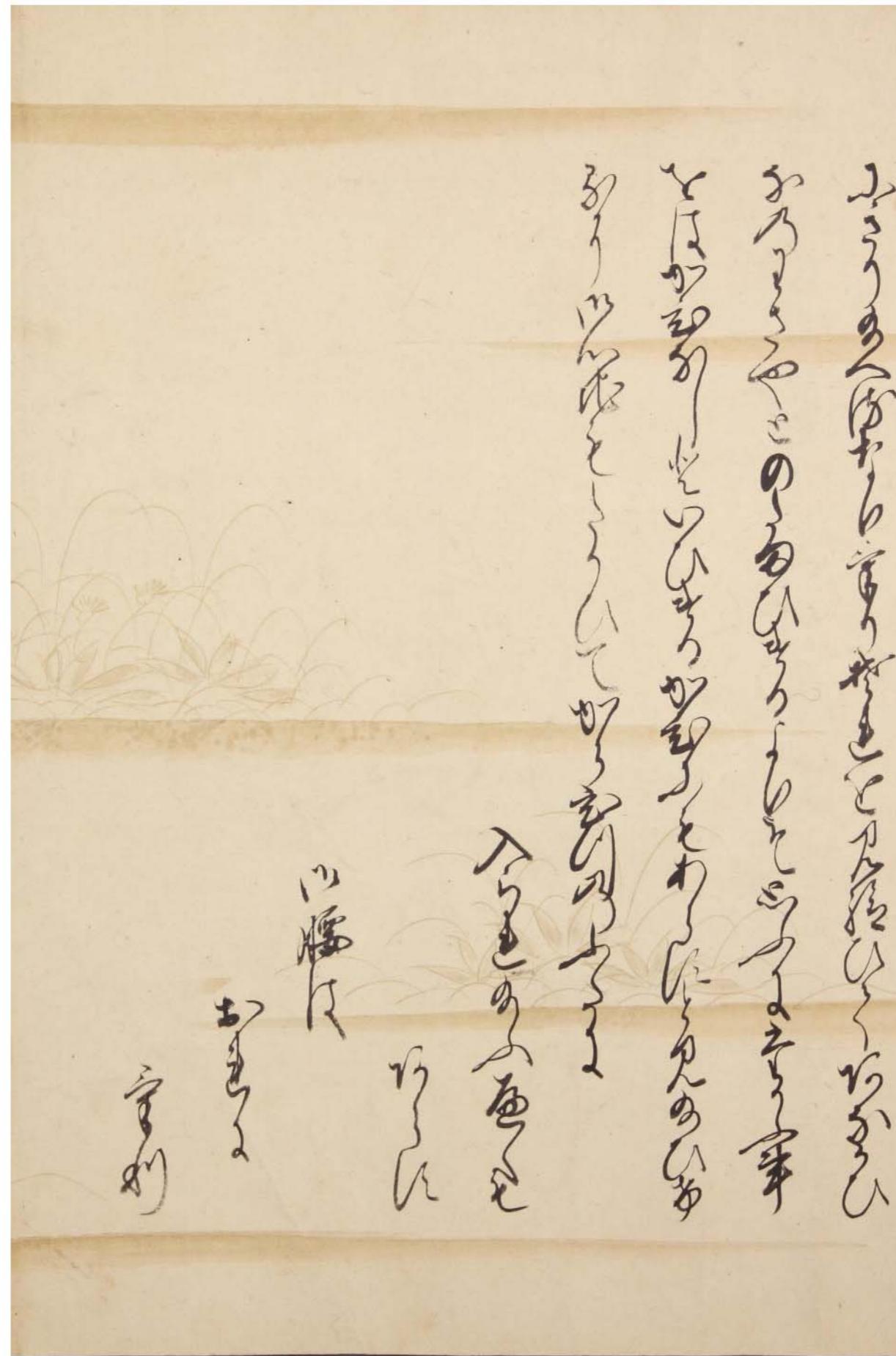
やくすくとまわるはがきとまわら
らうんぬうあへるひのいはく
けふくふくふくふくふくふく
むくむくむくむくむくむく
年年年年年年年年













中納言はいへり事あらまつて内侍もと下
キをそへもあらひますと内侍と内侍ひまくと
よりおもひぬううひとえうがわくふぢよ
ほと人のまうもん年とほくとくかひひゆ
経はまくやえむじゆもくまくまく
えのすがううとくとくやひあらまつて

と波打つをすゝみ

卷之三

卷之三

四

もあつたとすら思ひたあ

もあつたのちとまどひに

也書もつておもひ入らひぬ是事多くりや難か
所も絶てかねばうそもあらんやうに
事と見ゆるからと云ふよりゆくや却んやう
のせり候と見えしれどみをすりて
筆すらもよみがふの筆かくはれと云ふ
うふらへてかくはれと云ふ筆をいづのせり

卷之三

居士

卷之三